

平成20年度

奈良県農業の概要



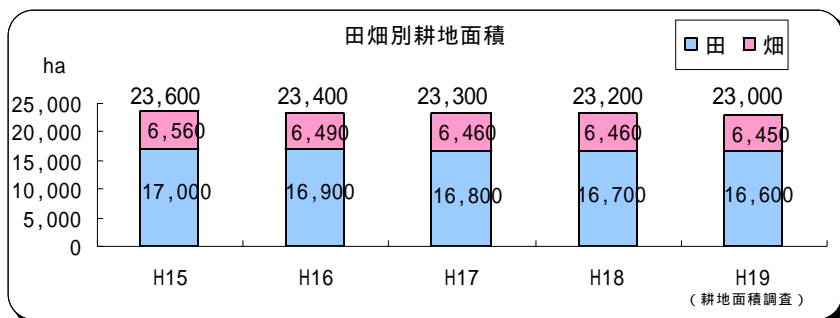
農業農村景観100選写真「日本の秋：まほろば」

奈良県農林部

1 本県農業の現況

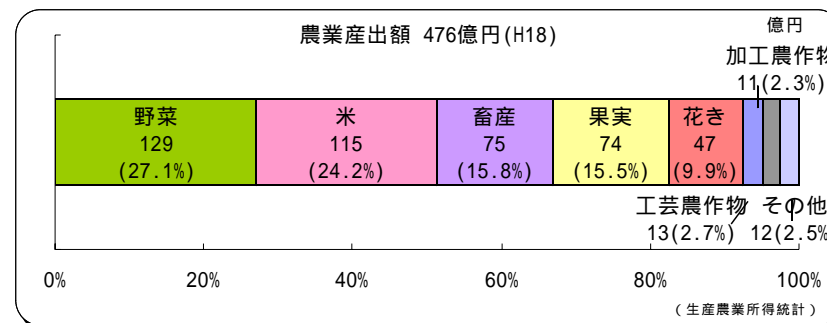
1) 耕地面積

本県の耕地面積は、県土369,000haの6.2%にあたる23,000haで、その内訳は田16,600ha、畑6,450haである。
 ここ5年間では、転用や耕作放棄等から田400ha、畑110haが減少している。



3) 農業生産

農業産出額(H18)は476億円で、前年に比べ14億円減少した。
 柿、荒茶、ウメ、イチゴ、ナス、ホウレンソウなどが全国クラスの主産地を形成している。



2) 農家・担い手

農家戸数は30,597戸で、うち、販売農家は54.9%の16,798戸である。
 主業農家の占める割合は、販売農家のうち13.8%の2,317戸である。
 主業農家...農業所得が主で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいる農家

販売農家の経営耕地面積は平均で78a/戸であり、1ha未満の農家が8割を超え、小規模農家が多くを占めている。

農業就業人口は28,333人、基幹的農業従事者は15,580人である。
 農業就業人口...農業従事者のうち農業のみ、もしくは兼業でも農業の従事日数が多い者
 基幹的農業従事者...農業就業人口のうち、ふだんの状態が農業が主の者

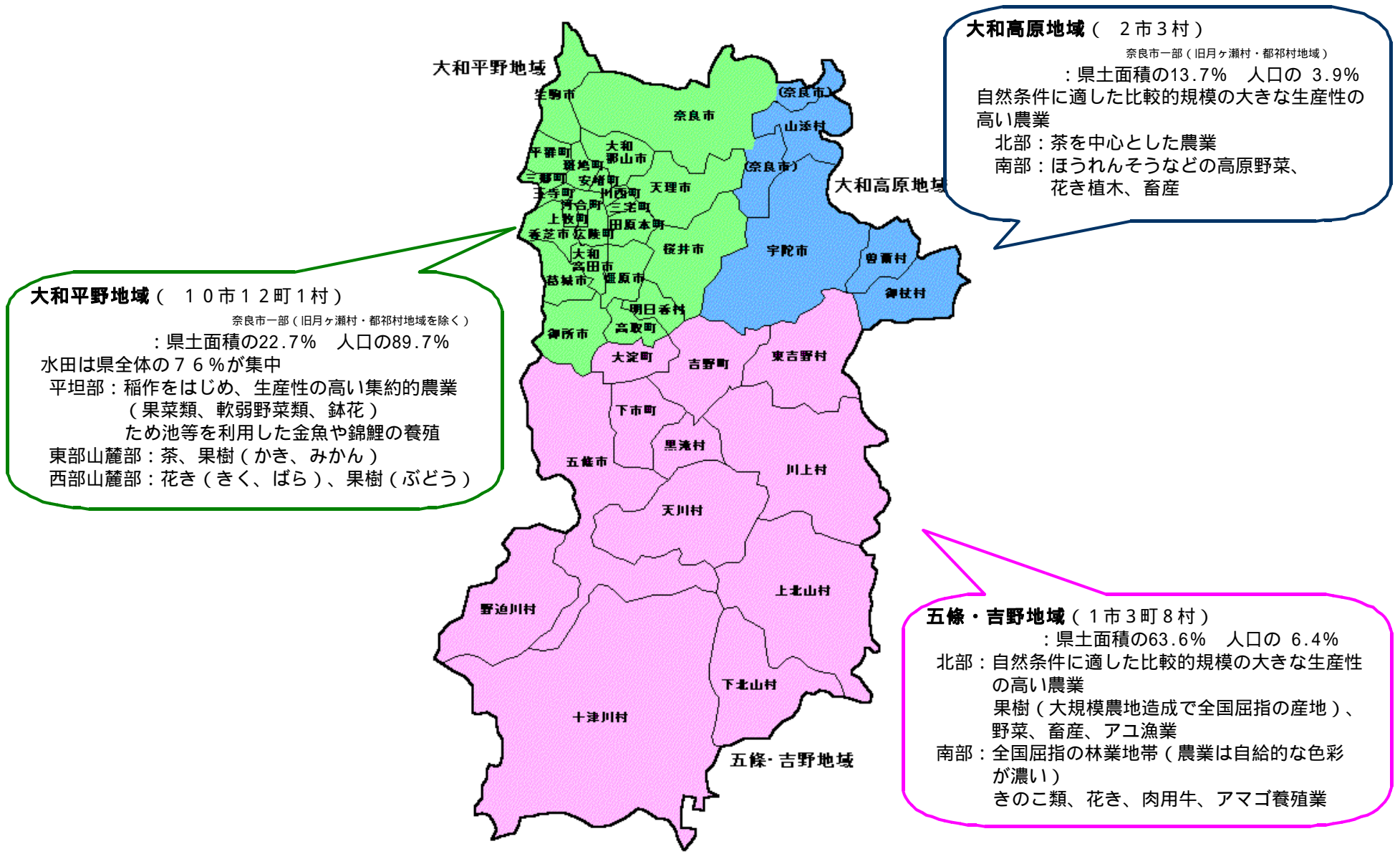
認定農業者数は1,035人(H20.3)で、40歳未満の割合は13%(H19.3)である。
 農業法人数は50法人(H19.10)、うち農事組合法人は35法人(H20.3)、
 農業生産法人数は26法人(H20.1)となっている。

販売農家の農産物販売金額は、50万円未満が41.7%であるのに対し、1,000万円を超える農家は4.1%にすぎない。

4) 全国からみた県農業の地位

	奈良県	全国	構成比率	順位	備考
総農家数(戸)	30,597	2,848,166	1.1%	44	H17
販売農家数(＼)	16,798	1,953,424	0.9%	44	H17
主業農家数(＼)	2,317	429,467	0.5%	41	H17
2ha以上経営農家数(＼)	745	329,513	0.2%	42	H17
農家人口(販売農家世帯員)(人)	74,764	8,370,489	0.9%	43	H17
農業就業人口(＼)	28,333	3,352,590	0.8%	44	H17
基幹的農業従事者数(＼)	15,580	2,240,672	0.7%	43	H17
農業産出額(億円)	476	86,321	0.6%	45	H18
水稻収穫量(t)	49,600	8,714,000	0.6%	41	H19
荒茶生産量(＼)	2,530	94,100	2.7%	6	H19
かき収穫量(＼)	25,700	232,700	11.0%	2	H18
うめ収穫量(＼)	2,190	120,600	1.8%	4	H19
いちご収穫量(＼)	3,960	190,600	2.1%	12	H18
なす収穫量(＼)	7,920	372,400	2.0%	12	H18
ほうれんそう収穫量(＼)	4,830	299,100	1.6%	22	H18
内水面漁業・養殖業生産額(億円)	20	786	-%	-	H18

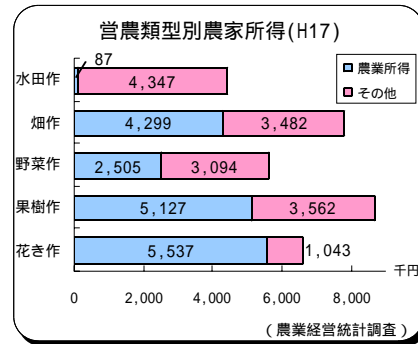
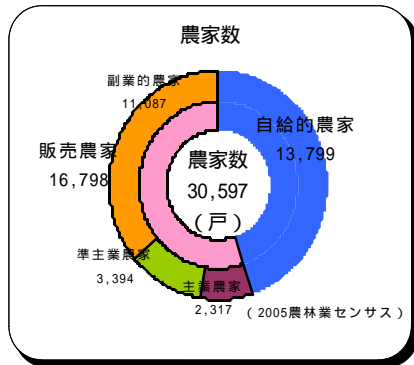
2 本県農業の地域別現状



3 本県農業の特徴

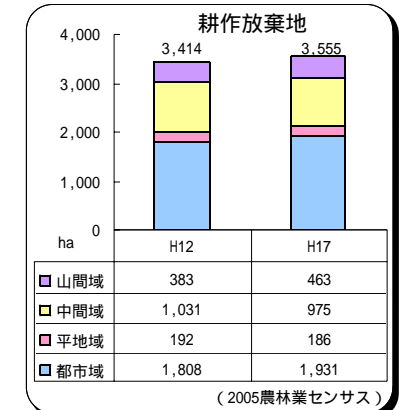
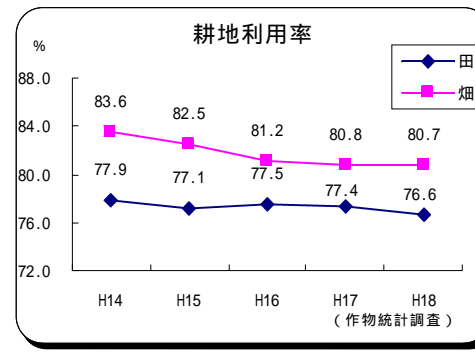
大半は零細経営の副業的農家（サラリーマン兼業）

- ・主業農家は販売農家(16,798戸)の13.8%(2,317戸)である。
- ・所得別にみると、水田作では農業所得の割合が低いのに比べ、果樹・花き作では高くなっている。



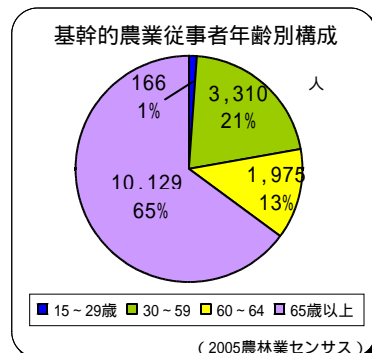
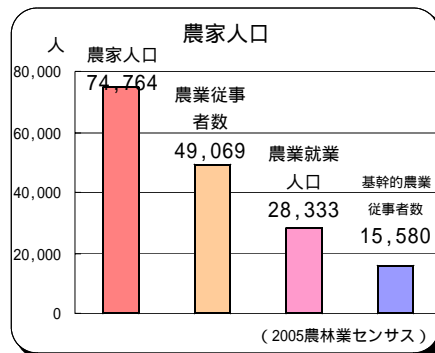
耕地利用率の低下と目立つ耕作放棄地

- ・総農家と土地持ち非農家を合わせた耕作放棄地面積は3,555ha(H17)、耕作放棄地率は18.5%と近畿府県において最下位である。



中核的な担い手の不足と高齢化

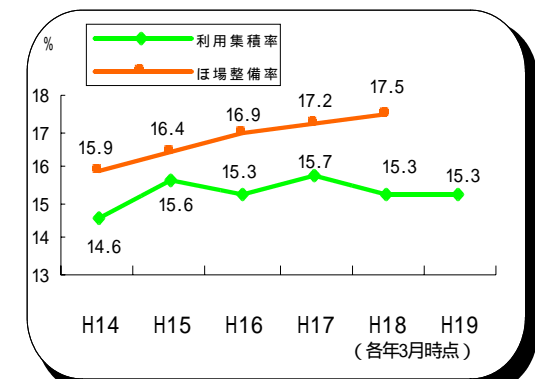
- ・農家人口に占める基幹的農業従事者数の割合は21%にすぎず、年齢別構成で見ると65歳以上が65%にのぼる。



進まない農地の流動化とほ場整備

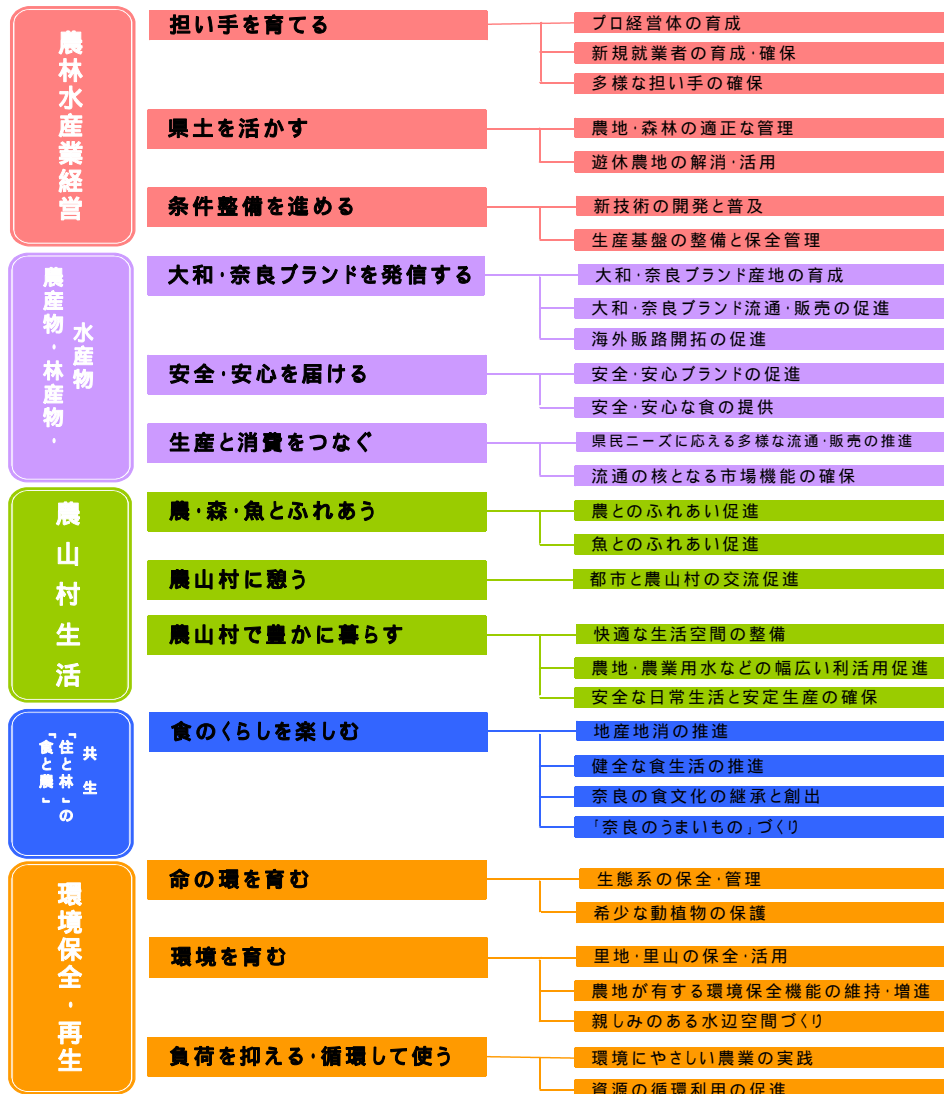
- ・ほ場整備率はH14からH18の4年間で1.6%の伸びでとどまっており、利用集積率についてもこの5年間横ばいの状態が続いている。

- ・根強い土地保有意識
 - ・「条里制」により10a区画程度に整備済
 - ・歴史的遺構が一つの隘路
- といった要因が考えられる。



4 本県農業農村の振興方策（主な施策）

平成18年度に策定した「奈良県農林振興ビジョン21」に基づき、国の各種施策・制度を活用しながら、体系的、重点的に施策を展開しています。



【農林水産業経営】～担い手を育てる・県土を活かす～

シニア(農業基礎)・アタック(就農準備)ファーマー養成研修

農業総合センター（農業大学校）において、定年退職・予定者等で就農をめざそうとしている者を対象に、短期間で農業の基礎的な知識・技術を修得してもらう研修を実施しています。



遊休農地の解消・活用

地域農業の振興、農地の持つ多面的機能の維持・増進と良好な田園空間の形成を図るため、「担い手バンクシステム」や「農地取得の下限面積緩和」等の施策を通じ、多様な担い手による農地の活用を促進し、遊休農地の解消と活用を図ります。

畜産技術センター「みつえ高原牧場」での技術開発

酪農・肉用牛生産を支援する「育成牧場」機能とバイオテクノロジーを応用し効率的な子牛生産を進める「研究施設」機能を併せ持つ総合的な拠点施設としています。



安定的な農業用水の確保 (十津川紀の川二期事業の推進)

老朽化した吉野川分水施設を改修することにより、農業用水の安定供給を図り、水の有効利用を進めます。

【農産物・林産物・水産物】～特産品が輝く～

新たな販売・流通戦略の構築

流通・消費のトレンドを踏まえながら、食品産業部門や商工・観光部門とも連携を強化して、新たな需要の創出と販路拡大を図ります。

大和野菜の振興



奈良県産として特徴をアピールできる野菜のブランド化を図るため、大和の歴史と食文化に根ざした大和野菜を育成して産地づくりを進めるとともに、PR活動を実施します。

「大和の花き・植木」ブランド産地育成

県内の育種家育成品種による産地づくり、長持ちする鉢花等付加価値の高い商品開発等によりブランド産地の育成を支援しています。



大和茶のPR

大和高原では、上級茶を大規模に生産できる体制の整備が進んでおり、今後ともイベント等での緑茶の消費啓発や県産茶の販売促進によって、「大和茶」の知名度向上を図ります。



「奈良の柿」ブランド産品の育成と海外市場の開拓・進出

新たな品種等の導入によるオリジナル商品の開発や消費者ニーズに対応した高品質果実の生産体制を強化し、「奈良の柿」をPRするとともに、新たな販路として台湾・香港等への輸出を支援します。



畜産ブランド「大和牛」「ヤマトポーク」「大和肉鶏」の生産振興

県内の恵まれた自然環境の中で飼育された畜産物を安定的に提供できるよう生産振興と流通体制の整備を図っています。

大和牛：「味にこくと深みがある」と言われる黒毛和種の雌から日本食肉格付協会の肉質規格3等級以上のものを厳選しています。また、血統、飼料等の生産情報が管理され、消費者に必要な情報を提供しています。



ヤマトポーク：おいしい豚肉を作るため父豚の系統を統一し、日本食肉格付協会の豚枝肉取引規格「上」相当のものをヤマトポークと認定しています。しまりのある脂肪でうま味と風味をとり込んだジューシーな味が自慢です。



大和肉鶏：うま味と歯ごたえが定評の県の代表的な特産品で、平成19年には地域団体商標を取得しました。より一層信頼される安全安心な大和肉鶏を提供できる「地鶏肉特定JAS」の認定取得に取り組んでいます。



安全・安心な農産物づくり

安全な農業資材を用いて栽培した農産物を、生産履歴の記帳により消費者等に対して生産情報等開示できる制度を推進しており、米、柿、いちごなどで取り組まれています。



【農山村生活】～「田園」・「山里」に暮らす・憩う～

内水面漁業の振興

地域の特性を活かした水産資源の活用などによる優良種苗の確保や自然の生態系に配慮した放流事業などにより、あゆやあまごなどの内水面漁業の振興を図ります。



都市と農山村の交流

農林業体験の受入側を対象とした講座などの開催や、市町村が主体で行う都市・農山村交流の受入地域組織育成に対する支援を行い、生産者と消費者の交流、グリーン・ツーリズム（都市と農山村の交流）を推進します。

農地・水・環境の良好な保全と質的向上

農地・水・環境の良好な保全とその質的向上を図ることを通じて、地域の振興に資するため、地域ぐるみでの効果の高い共同活動と、農業者ぐるみでの先進的な営農活動を、一体的かつ総合的に支援しています。さらに今年度から遊休農地の解消に積極的に取り組む活動組織に対して支援します。



中山間地域の新たな魅力の創造

「農山村まるごと収穫体験&ウォーク」を実施し、棚田・里山が続く魅力ある中山間地域に都市部の住民が訪れ、農業体験等を通じてこれらの地域の理解を深め、地域の活力を高めます。

農道の整備

農業の近代化、流通の合理化と農村振興及び地域の活性化を図り、幹線道路へのアクセスを改善する幹線農道として広域農道・農免道路等の整備を進めています。



鳥獣害対策

中山間地域を中心とした鳥獣害の対策に必要な情報を発信し、防除技術を普及しています。

農業総合センターが開発した「猿落君」

【「食と農」・「住と林」の共生】～食のくらし・木のくらしを楽しむ～

奈良のうまいものづくり

平城遷都1300年(2010年)に向けて、食べ物・味覚の面から奈良をアピールできる料理「奈良のうまいもの」を発掘・創作するとともに、奈良を訪れた人や県民が気軽に食べることができる「奈良のうまいもの」情報の発信を図ります。



なら食と農(みのり)のフェスティバルの開催

県内産農林水産物や加工品などの消費拡大のPRを図り、地産地消の推進とともに、商工まつり・技能フェスティバルと同時開催による、より多くの県民の方々との食と農を通じた都市農村の交流により農業の持つ役割や魅力を情報発信します。



なら県産米PR

県内幼稚園児とその保護者を対象に、県主要品種を用いた「ヒノヒカリでごはん体験講座」を行うとともに、県内外に向けた県産米のPRを行います。



農林水産物直売所の推進

既存直売所の販売力向上や新規直売所の開設を促進して、県産農林水産物の多様な流通・販売を進めます。

【環境保全・再生】～多様な生命を育む～

棚田等の保全活動

明日香村での棚田オーナー制度など棚田等がもつ多面的機能を活かす取り組みを支援しています。



環境保全型農業の推進

環境にやさしい農業を実践する農家であるエコファーマーの認定を推進しています。

アイガモ農法

水辺環境の整備

ため池等の農業水利施設について、親水や景観に配慮した整備を進めています。

